長野市ソフトボール連盟　ルール運用　お悩み塾（１）

○試合中、打者がヒットを打った後に、当該打者の背番号がパンフレット記載番号と違っていることに、守備側監督が気付き主審に『打者がアウトではないか？』とアピール。

主審対応：打者アウトを宣告。ヒットにより進塁したランナーは元の塁へもどした

正　　解：オフシャルルールブック４－２項　打順表　２－（注）

試合開始後、ユニフォームナンバーの記入誤りが発見されたときは、訂正して試合を続行すればよい。

と記されております。

よって、打者はアウトにならず、ヒットは有効となり、番号を訂正して試合は続行となります。

防止対策：連盟では、メンバー表が提出された時に、審判チームがパンフレットと突合して背番号等の確認を実施し、番号違いの防止を図っております。

試合前には必ずメンバー表とパンフレットを突合しましょう！

また、登録背番号と違うユニフォームで来てしまったら、事前に審判チーム・相手チームに申告をして、確認を得て試合を開始しましょう！

○第一試合で「６時３０分です」と審判からコールがあり、新しいイニングに入らず、６時４５分前に試合終了となった。

毎年発生している、第一試合のコール時間誤りです

第一試合のコールは「６時４５分」で７時時点の打者が最終打者となります。

第二試合のコールは「８時３０分」で８時４５分時点の打者が最終打者となります。

審判（審判理事・記録係）が適正な時間運用に努めるとともに、もしも、誤った時間コールがあった場合は、参加選手（誰でも可）が審判に運用時間の誤りを申告し、訂正させてください。

○ノーアウト、ランナー１塁の場面で、次打者が内野ゴロ。野手の送球が暴投となり、ボールデッドラインを越えた。

主審対応：主審は、ボールデッドでテイク２をコールし、打者走者は２塁へ。

ボールデッドラインを越えた時に、２塁に到達していた１塁ランナーはホームへ生還とした。

正　　解：オフシャルルールブック８－４項　安全進塁権　８

インプレイの送球がブロックトボールまたはオーバースローになった時。

野手の手から球が離れた時の打者の位置から、２個の安全進塁権が与えられる。

と記されています。

よって、審判団は、野手送球時（球が手から離れた時）にランナーがどの位置にいたかを確認していないと正確なジャッジが出来ませんので、あらゆる場面を想定しながらプレーを見ることが重要です。

※通常の内野ゴロであれば、各ランナーが送球時に次の塁に到達していることはあまりありませんので

上記例であれば、ランナー２・３塁となります。

※暴投あるいは捕逸した球が、バックネットの下に入ったり、挟まってしまったり、競技場外に出たときは、１個の安全進塁権が与えられます。

※野手がファウルフライ捕球後、ボールデッドラインを越えてしまった場合も１個の安全進塁権が与えられます。

○インプレイ中、ランナーがベースを離れた。審判は気付かず、相手チームから『離塁していた！』と指摘があった。

攻撃チーム監督からは「離塁アウトはアピールプレーではないので、審判が見ていなければアウトとはならないのではないか？」との抗議を受けた

主審対応：アピールを受けて、ランナーアウトを宣告

正　　解：離塁アウトはアピールによるものではないので、審判が見ていなければアピールを受けてもアウトとなりません。

審判員に確認し、誰もみていなければアウトとせず、試合を続行してください。

防止対策：このような事のないように、各審判は投手の手からボールが離れるまでは、離塁についても注意をしていてください。

○無死１塁２塁、センター前に明らかに抜けそうな打球をバッターが打ったが、走り出した２塁走者に当たってしまった。

ボールはショートが拾い、セカンドに送球した（この時は２塁セーフ）。

主審対応：ボールデットとし、打球が当たったランナーはアウトとし、１死１塁２塁として再開。

正　　解：明らかにヒットとなりそうな打球は、インプレーとして継続する。

今回の場合２塁セーフだったが、２塁へ送球→１塁送球（６－４－３）でトリプルプレーも有り得た。

逆に、守備者が処理出来る打球に当たった場合は、守備妨害となりボールデットとする。

防止対策：判断の難しいケースではあると思います。

四人の審判で話し合い、結論を出すのもよいと思われます。